

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 埼玉県 】

学校名【 県立騎西特別支援学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	中学部 1年生 15人 2年生 14人 3年生 25人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(生活単元) ② 行事名( ) ③ その他( ) (2) 地域における活動 ① イベント名( ) ② その他( )
4 目標 (ねらい)	ボッチャをパラリンピック種目として意識して活動をして関心を高める。 ボッチャのルールや起源を理解する。 チームや個人で目標をもちゲームを行う。
5 取組内容	(1) 実施日時 令和3年5月～7月 (2) 会場 体育館・教室・音楽室 (3) 内容 まずボッチャの歴史やパラリンピックの種目であることの説明や写真を用いて行い、その上で使う用具やルールの説明を行った。 また12月にパラリンピックの事務局の方が来校する予定なのでそこに向けて1人1人の技術の向上やチームで協力できるようにするという目標を伝えた。



実施するにあたって、投げる場所にケンステップ等を置き、視覚的に分かりやすくする工夫を行った。



チームで競技を行うという意識をつけるために友達へのアドバイスや投げるための目印のために指を指し示して友達が投げやすくなる工夫を生徒間で行った。  
また計測等も生徒主体で行い、より競技のルールに親しめるように努めた。



## 6 主な成果

- ボッチャという競技の起源やルール、日本代表の活躍等を理解し、パラリンピック種目として意識づけすることができた。
- チームで協力することで、生徒同士が助け合う場面が多くみられ生徒同士の関係づくりの一助になった。
- 様々なチームで協力することで、ただプレーするだけでなく、勝つためにはどうすればよいのかを考えられる生徒が増えた。

## 7実践において工夫した点 (事業の特色)

- ケンステップを使い、投げる場所を視覚的にわかりやすくした。
- 計測等を生徒主体で行うことで、普段の授業で学んだ知識を実際に使うことで、以後の学習意欲につなげた。
- 球を投げる前に消毒を徹底した。

8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"><li>・新型コロナウイルス感染拡大防止の配慮をもう少し配慮する必要がある。</li><li>・学部全体で生徒の実態差もあり、個別にも理解を深められるようなフォローが必要である。</li></ul>
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"><li>・東京オリンピック・パラリンピックの開催を受けて、振り返る機会を設けたい。</li></ul>





ピクトグラムの学習



### ③ピクトグラムクイズ

・ピクトグラムを用いてスポーツ名を答える学習を行った。ピクトグラムを見ても分からない場合はヒントを3つ与えながら考えられるようにした。また、生徒になじみのある競技を問題にし、回答できるよう工夫を行った。

ピクトグラムクイズに  
チャレンジしよう!

ヒントもあるからがんばってこたえてね



Q1 このスポーツはなに??



- ・日本といえばこれ!
- ・たくさんメダルとりました!
- ・たたみの上で戦います!

正解は。。。。

ピクトグラムクイズ  
～このスポーツ何?～

じゅうどう  
・柔道

12個のメダル獲得!  
1番多くメダルを獲得しました!



### ④競技シーン

・生徒に興味のある競技の中から選んでもらい、動画視聴を行った。女子バスケットボール、競泳、空手の3つの動画を見て迫力を感じた。

## 6 主な成果

・開会式や閉会式の動画を視聴することで、日本らしさのある演出を感じ取り、興味関心を示す様子が見られた。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピクトグラムが日本で誕生し、普段の生活の中でも使われていることに気が付き、校舎の中にあるピクトグラムを見つけ出すことができた。</li> <li>・様々な競技シーンを視聴し、競技ごとの雰囲気や盛り上がり方、選手の表情などの変化を見つけることができた。選手の活躍する姿を見て、感動している生徒や応援している生徒もいた。</li> </ul>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策として、各教室で取り組むようにした。</li> <li>・クイズ形式の学習内容にすることでオリンピックや競技に関心や親しみを持ちやすくした。</li> <li>・動画やパワーポイント等の視覚的支援を使用し、誰でも注目できるようにした。</li> </ul>
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラスでの学習を行ったが、生徒の実態の幅が大きかったため、理解しきれない生徒もいた。実態別でグループ学習を行ったり、別のパワーポイントを作ったりと、個別に理解ができるような学習内容をつくる必要であった。</li> </ul>
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリンピック・パラリンピックの振り返りや、2024年に行われるパリ大会などに繋げられる授業展開を行う。</li> </ul>

# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 埼玉県 】

学校名【 県立騎西特別支援学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ <b>V</b> （複数選択可）	
2 実施対象者 （学年・人数）	小学部1年生 17名	
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 体 育 ） ② 行事名（                    ） ③ その他（                    ） (2) 地域における活動 ① イベント名（                    ） ② その他（                    ）	
4 目 標 （ねらい）	◎体育の授業「ボール運動」を通して、パラリンピックのスポーツ（「ゴールボール」）に親しむ。 ○対象物（的・人）を意識し、ボールを転がすことができる。 ○簡単なルールを守り、友だちと一緒にゲームを楽しむことができる。 ○ボールを使った運動に慣れ、自分からボールに触れ積極的に活動に取り組もうとする。	
5 取組内容	【ココロパス】先生にパス 	友だちと円陣パス 
	【ココロゴール】 ゴールにシュート 	

	<p style="text-align: center;">【コロコロPK】先生にシュート！      キーパー役に挑戦！！</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回数を重ねることで、名前を呼んでから（相手を意識する）のパスが定着できるようになってきた。</li> <li>・個々の実態で転がす距離を変えたので、的をねらって転がせるようになった。</li> </ul>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の好きなキャラクターを的にすることで、ゴールを意識づけることができた。</li> <li>・坐位でパスに取り組んだことで落ち着いて取り組み、ボールを転がすことに集中することができた。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目隠し体験は、学級で「すいかわり」の時に一部の児童が音や「前、右、あと3歩」等の言葉の指示で動く体験を行うことができた。目隠しを嫌がる児童がほとんどでボールを扱う時は怖がることや安全面から取り組むことが難しかった。</li> <li>・活動場所のできることに取り組んだため一定にすることができず、多目的室→ボウリング、中庭→大玉転がし、体育→ボール転がし（パス、ゴール、PKゲーム）をローテーションで取り組んだので、児童にとって見通しが持ちづらかったのではないかと。</li> <li>・的を意識して強く転がす、ボールがういてしまうことへの助言がうまくできなかった。</li> <li>・取り組む時間数が少なく、ゲームのおもしろみを伝えるまでたどりつけなかった。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的ではないが、何かのスポーツを見据えたボール運動に取り組んでいきたい。</li> </ul>

# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 埼玉県 】

学校名【 県立騎西特別支援学校 】

1 実践テーマ	① ・ II ・ ④ ・ IV ・ ⑤ （複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	小学部5年生 11名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 生活単元学習・体育 ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目 標 （ねらい）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聖火リレーの意味を理解することができる</li> <li>・ 友だちと協力してトーチ作りを楽しむことができる</li> <li>・ 聖火リレーの意味を意識し聖火リレーを楽しむことができる</li> <li>・ 友だちと風船バレーを楽しむことができる</li> <li>・ 風船バレーを通してインクルーシブな社会への理解を深めることができる</li> </ul>
5 取組内容	<p>(1) 開催日時 9月22・28・29日、10・11・1月</p> <p>(2) 会場 教室 ・ 体育館</p> <p>(3) 内容</p> <p>9月22日</p> <p>① 聖火リレーについて知る</p> <p>② マイトーチを作ろう（トーチ：小）</p> <p>9月28日</p> <p>③ 嘉納治五郎について知る</p> <p>④ みんなのトーチを作ろう（トーチ：大）</p> <p>9月29日</p> <p>⑤ 聖火リレーをしよう（仲良しの火を灯す）</p> <p>10・11・1月（週2回）</p> <p>⑥ ゴールボールと風船バレーに挑戦しよう</p>

### ① 聖火リレーについて知る

家庭でオリンピック・パラリンピックを見た児童とみていない児童がいるため、まず、学校の所在地である加須市で行われた聖火リレーの様子及びオリンピック開会式での聖火リレーから聖火台点火までの様子を動画視聴し、オリンピックに聖火リレーがあることを知り、聖火リレーがどのようなものなのか、イメージできるようにした。

また、聖火リレーの役割として、大会の到来を告げること、ルート上の人々に平和と友情のメッセージを伝えることの2つから、児童の実態を考慮し、後者の役割の「友情」（仲よし）に重点を置いて聖火リレーの学習を行うこととした。

### ② マイトーチを作ろう（トーチ・小）

画用紙に折り紙を貼り、組み立ててミニトーチを作成する活動を行った。聖火リレーへの興味関心を持たせるため、見本のトーチとトーチの作り方動画を視聴した。また、持ち手の部分に貼る折り紙の色を選び、オリジナルトーチを作成することができるようにした。



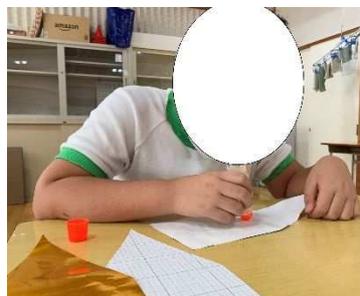
### ③ 嘉納治五郎について知る

東京オリンピックの柔道と嘉納治五郎の写真を見せ、クイズ形式で嘉納治五郎について学習し、講道館柔道の指針として揚

げられている言葉のひとつである「自他共栄」について触れる機会とした。互いに協力し合うことで自他ともに栄えることができる旨をわかりやすい言葉で伝えるため、多くの児童が知っている「大きなかぶ」を例にアニメーションを作成した。大きなかぶはひとりでは抜けなくても、みんなで仲良く協力すれば抜けるストーリーから、仲良く協力して学校生活を過ごしていくことの喜びをイメージできるようにした。

#### ④ みんなのトーチを作ろう（トーチ：大）

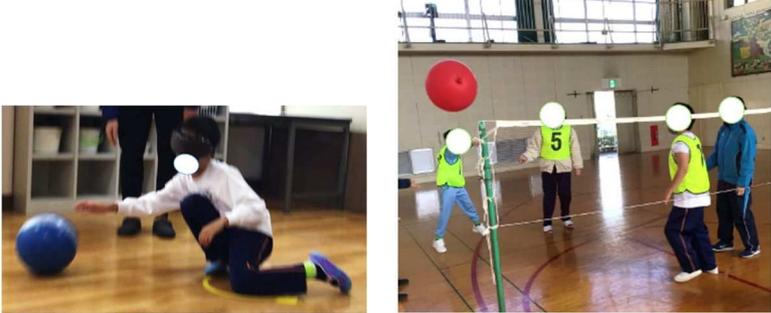
「友だちと仲良く協力する」ことに重点を置き、聖火リレーで使うトーチを2つ作成する活動を行った。②で一度作成しているの、児童は作業工程を理解しており、丁寧に作ることに重点を置き、自分の役割を果たさないと完成しないことに重点を置き、活動した。



#### ⑤ 聖火リレーをしよう（仲良しの火を灯す）

みんなで作った大きなトーチを使って聖火リレーを行った。①の聖火リレーの動画を再視聴し、イメージを膨らませ、リハーサルを行い動きの流れを理解してから本番とした。ミニ聖火台に灯した仲良しの火をシンボルとして、6年生に向けて仲良く協力して学校生活を頑張っていこうと伝えた。



	<p>⑥ ゴールボールと風船バレーに挑戦しよう  目隠しをしてゴールボールを使用したミニゲームと、障害の有無、障害種関係なく一緒にプレイすることができる風船バレーに挑戦しました。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者を意識することを苦手とする児童が多いなか、「仲良く協力すること」を意識して聖火リレーを行うことができ、前走者や次走者と動きや視線を合わせて聖火を受け渡すことができた児童が多かった。</li> <li>・オリンピックの写真等を見た際に、「オリンピック」や「東京オリンピック」という発言が増えてきて、オリンピックそのものへの興味関心が高まった。</li> <li>・マイトーチが完成した際にトーチを持って喜んで走りまわる児童が多く、みんなで協力して大きなトーチを作る際及び聖火リレーを行う際のモチベーションになり、友だちと協力して何かを成し遂げることにつながった。</li> <li>・共同が難しかった児童同士がペアで活動する等、友だちと協力することを意識できるようになってきた。</li> <li>・ゴールボールを通した視覚障害者体験を通して、「こわかった」「むずかしかった」「きこえないからしずかにしてほしい」等の感想が聞かれました。見えないことの怖さや視覚情報の大切さを実感し、公共の場で大きな声で騒いだり、急に押ししたりすると危ないことを理解した児童もいた。</li> <li>・風船を使用してバレーボールを行ったことで、実態差の大きい集団でも全員で一緒にプレイすることができ、楽しむ様子が見られた。</li> </ul>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トーチの作成活動を行うことで成果が手元に残り、オリンピックや聖火リレーを知るきっかけとするとともに、学習したことを思い出すきっかけにもできるような体験型学習にすることで、知的特別支援学校の児童が興味関心を持つことができるようにした。</li> <li>・児童が興味関心を持ちやすいよう、音のなるゴールボールやカラフルな風船を使用する種目を選んだ。</li> </ul>

8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本来であれば、児童同士が声を掛け合ったり、手伝ったりするなど協力してトーチの作成ができるよう、机の配置など工夫して環境を整えたいが、新型コロナウイルス感染予防のため、距離をとり、向かい合わない配置での活動となった。そのため、各々が分担した役割を果たし、トーチは完成したものの、児童同士のやりとりを促すことはできなかった。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピック競技の体験を通して、他障害の視点から、日常における自己の行動を振り返ることができる機会をつくりたい。</li> <li>・フェアプレー等、児童の実態を考慮し、日常に結びつきやすい、オリンピック・パラリンピックの題材を取り入れながら、年間を通して学習していきたい。</li> </ul>

# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

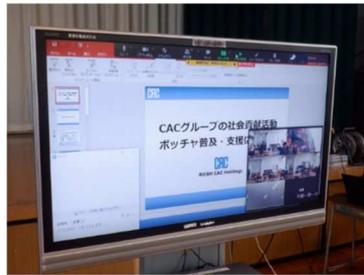
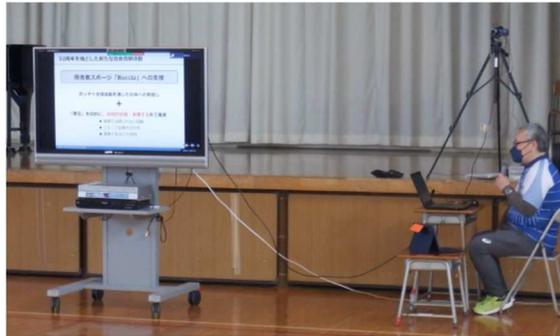
## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 埼玉県 】

学校名【 県立騎西特別支援学校 】

1 実践テーマ	① ・ II ・ III ・ IV ・ ⑤ (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	中学部 1・2・3年生 54名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 生活単元学習 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボッチャに関する講義を聞き、競技への興味関心を高める。</li> <li>・ボッチャの実技体験を通じてルールや魅力を理解し、競技への意欲を高める。</li> </ul>
5 取組内容	<p>中学部では 1 学期からボッチャを継続的に取り組み、基本的なルール、パラリンピックでの活躍等に触れ、生徒たちの関心意欲の向上に努めた。また、ボッチャを通じて「協力」することをテーマとして掲げ、コミュニケーション能力の向上に努めてきた。</p> <p>1 年間を通じた取り組みの中で、ボッチャの推進普及に貢献している企業の方々を招待して講義をして頂く機会を設けた。その内容は以下の通りである。</p> <p>①ボッチャに関する講義                  はじめにボッチャの歴史・起源などの講義を体育館で受講した。                  パラリンピックの起源やボッチャの起源・パラリンピックでの日本代表の活躍・ボッチャのルール等の説明を受けた。                  また、ボッチャという競技は健常スポーツの派生ではなく、障害者スポーツ独自のものであり、スポーツだけの側面ではなく社会貢献といった側面をあるという説明もあった。</p>



## ②ボッチャの実技体験

講義終了後、学年毎にボッチャの実技体験を行った。限りなく実際のボッチャに近い形式で行い生徒たちも意欲的に取り組んでいた。



	<p>最後の感想発表では、これから学校で行うボッチャに学んだことを活かしていきたいとの意見も挙がり、生徒たちにとって深い学びの場となった。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボッチャについて新たなルールやコツを学ぶことで生徒の今後の意欲につながる。</li> <li>・実技の指導では、計測体験も行い、実際のルールに基づいての体験は生徒にとって貴重な時間となった。</li> <li>・各学年交互に入れ替わり、感染症予防しながら、本格的な授業を行うことができた。</li> </ul>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策のため、ソーシャルディスタンスを取りながら活動を行った。</li> <li>・事前学習を各クラスで行い、当日の流れに見通しが持てるように努めた。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の授業では中学部3年以外は各クラスでオンラインの参加となったため、生徒の参加意欲に偏りがでた。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きボッチャに取り組む。</li> <li>・他の種目に着目し、スポーツを楽しむ心の育成を行う。</li> </ul>

# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 埼玉県 】

学校名【 県立騎西特別支援学校 】

1 実践テーマ	① ・ II ・ III ・ IV ・ ⑤ (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	高等部 1年生 30名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 保健体育 )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリンピックに触れ、様々な競技への興味関心を高める。</li> <li>・オリンピック競技への理解を高める。</li> <li>・スポーツを楽しむ心の育成。</li> </ul>
5 取組内容	<p>(1) 開催日時 夏季休業中、9月～11月中旬まで</p> <p>(2) 会場 各家庭、各教室、体育館</p> <p>(3) 内容</p> <p>①オリンピック・パラリンピックを見よう</p> <p>②自分の気になった選手を発表しよう</p> <p>③バレーボールをしよう</p> <p>①オリンピック・パラリンピックを見よう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中に「オリンピック・パラリンピックを観戦し、気になる選手を見つけよう」という宿題を出した。</li> <li>・生徒はオリンピック・パラリンピックをテレビで観戦し、気になる選手について調べ、ワークシートに名前や種目、出身国、その他の項目で 例 記入した。</li> </ul> <div style="text-align: right;">  </div>

## ②自分の気になった選手を発表しよう

・宿題で取り組んだ「気になる選手」を各クラスで模造紙に貼り、学年で発表を行った。

・それぞれの発表をよく聞きながら知っている選手の発表の際には、「みた！この選手知っている！」というような声が聞こえた。また、知らない選手が出た際には、「知らない」で終わるのではなく「調べてみました。」というような声が聞かれた。



## ③バレーボールをしよう！

・全日本男子バレーボール代表が29年ぶりに決勝リーグに進出したことを受けて、実技ではバレーボールに取り組んだ。

・オリエンテーションとして、男子バレーボールの試合の映像を視聴したり、注目選手の紹介をしたりした。また、バレーボールの動作と名称の確認を行った。

・興味関心が持てるように、年齢の近い選手やバレーボールのマンガのキャラクターを用いて進めた。



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションの後は、競技の実践を行った。実態に応じたボールをいくつか用意したが、ほとんどの生徒が、バレーボールを使用して取り組んでいた。</li> <li>・アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、アタックの技術を体験し、楽しみながら活動する様子が見られた。</li> </ul> <p>アンダーハンドパスの練習では、①膝を曲げる。②足と足の間でボールを取る。③肘は伸ばす。オーバーハンドパスでは、①おでこの前で三角形を作って取る。②肘と膝を同時に伸ばす。③ボールを弾く。とそれぞれ3つポイントを伝え実践した。初めは、ボールの操作が上手にできない生徒もいたが、回数を重ねるうちに上手に前に立っている教員に返球できる生徒が増えてきた。</p> <div data-bbox="502 622 1348 929" style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アタックでは、助走の確認やボールの打ち方について、段階を分けて、細かく指導を行った。助走からジャンプをするとタイミングが合ないことがあったが、教員や友達が「1・2・3」の声かけを行うことで、タイミングを合わせられる生徒が増えてきた。また、カラーコーンを置いて的当てゲームを行った。それぞれが、コーンを狙ってアタックをしようとする姿が見られた。</li> </ul>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック・パラリンピックに興味を持つ生徒が少なかったが、競技を調べたり、関心を持ったりして開催期間中にテレビ観戦をする生徒が増えた。</li> <li>・オリンピックの競技であるバレーボールを実際に体験することで、楽しさを味わいながらバレーボールに関する知識を深めていくことができた。</li> </ul>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策のため、ソーシャルディスタンスを取りながら活動を行った。</li> <li>・ルールを簡易化したり、実態に応じたグループ分けを行ったりすることで一人一人に合った活動を行った。</li> <li>・競技の迫力や正しい動きを感じ取れるように、バレーボールが専門の教員が見本を活動前に見せた。</li> </ul>
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピックに目を向ける生徒が少なかったように感じる。授業等で取り上げていき、パラリンピックにも興味や関心を広げさせていきたい。</li> </ul>
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度以降も引き続き、オリンピック・パラリンピックの競技になっているものを題材として授業で行っていき、生徒の興味関心の幅を広げていきたい。</li> </ul>

# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 埼玉県 】

学校名【 県立騎西特別支援学校 】

1 実践テーマ	① ・ II ・ III ・ IV ・ ⑤ （複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	高等部 2年生 30名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 総合的な探究の時間・保健体育 ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 （ねらい）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリンピック・パラリンピックに触れ、様々な競技への興味関心を高める。</li> <li>・オリンピック・パラリンピック競技への理解を高める。</li> <li>・スポーツを楽しむ心の育成。</li> </ul>
5 取組内容	<p>(1) 開催日時 9月～1月</p> <p>(2) 会場 各教室、体育館、校庭</p> <p>(3) 内容</p> <p>①オリンピック・パラリンピック調べ学習</p> <p>②フットゴルフ・サッカー</p> <p>①オリンピック・パラリンピック調べ学習 総合的な探究の時間で学習グループごとに、調べ学習を行った。調べ学習では、自分の興味をもった競技や選手を調べたり、競技映像や実際に競技を体験したりした。調べ学習の成果として、体育館で各グループの発表会を行った。</p>





②フットゴルフ・サッカー

保健体育の時間でフットゴルフとサッカーを実施した。本来ならば、オリンピック競技であるゴルフを体験させてあげたかったが、生徒の実態上難しく、ゴルフから派生し「フットゴルフ」を行った。フットゴルフで、ボールを蹴る技術が向上したため、サッカーにも取り組んだ。



	<p>②フットゴルフ・サッカー 保健体育の時間でフットゴルフとサッカーを実施した。本来ならば、オリンピック競技であるゴルフを体験させてあげたかったが、生徒の実態上難しく、ゴルフから派生し「フットゴルフ」を行った。フットゴルフで、ボールを蹴る技術が向上したため、サッカーにも取り組んだ。</p>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック・パラリンピックについて調べ学習を行い、パラリンピック開催期間中にテレビ観戦をする生徒が増えた。</li> </ul>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像視聴や競技体験など、生徒がオリンピック・パラリンピックをイメージしやすいように工夫した。</li> <li>・生徒の実態に合わせ、フットゴルフやサッカーの繰り返し指導を行った。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬季オリンピック・パラリンピックも学習の幅を広げてもよかった。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度以降も引き続き、オリンピック・パラリンピックの競技になっているものを題材として授業で行っていき、生徒の興味関心の幅を広げていきたい。</li> </ul>

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

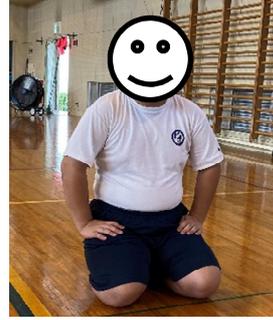
事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 埼玉県 】

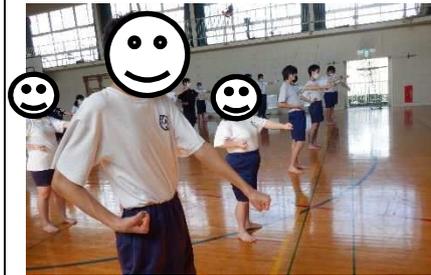
学校名【 県立騎西特別支援学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ <input checked="" type="radio"/> V （複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	高等部 3年生 26名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 保健体育 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック東京大会の新種目である空手に興味を持つ。</li> <li>・空手を楽しむ心の育成。</li> <li>・空手を通して礼儀を知る。</li> </ul>
5 取組内容	<p>(1) 開催日時 9月～11月 (2) 会場 体育館 (3) 内容</p> <p>①正座、礼、黙想の仕方 ②突き、蹴りの種類の説明、やり方 ③約束組手 ④形【対極初段】 ⑤試合（形）</p> <p>①正座、礼、黙想の仕方 ・裸足になり、正座の仕方について説明した後、実技を行った。黙想では、静かに目を閉じ、落ち着いて取り組む様子が見られた。礼では、自分の足のつま先を見ながら背筋を伸ばしてお辞儀をすることを毎度確認することで、少しずつ定着する様子が見られた。</p>



## ②突き、蹴りについて

- 正拳突きでは、拳の握り方、突く位置（相手のお腹）等を細かく指導することで、力強く突くことができた。
- 前蹴りでは、手本を見せながら説明を行った。ひざをしっかりと上げてから蹴ることを意識するよう伝え、実践を行った。



## ③約束組手

- ソーシャルディスタンスを取りながら、片方は正拳突き、片方は交わして前蹴りの組手を行った。それぞれ正拳突きと前蹴りのポイントを押さえて実践を行うことができた。

## ④形【対極初段】

- 正拳突きや前蹴りを覚えたのち、対局初段という形の実践。教員の号令に合わせて、正拳突き→前蹴り→方向転換という流れで形を覚えることができた。気合いを入れる際には、「迫力」を意識して取り組むことができた。回数を重ねるうちに、スムーズに参加できる生徒が増えた。



## ⑤試合（形）

- 【対極初段】の応用として、団体戦と個人戦を行った。教員の号令に合わせて形が綺麗にできた方が勝ちというルールで実施された。団体戦では、クラス対抗で行い、見学しているクラスが審判となった。見学者は、礼をするまで拍手をしない等の本番さながらのルールで実施された。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人戦では、各クラスから代表2名を選抜し、1対1で対戦し、決勝戦まで行った。</li> </ul>  
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空手について知らない生徒がほとんどではあったが、興味を持ち、授業に積極的に参加する様子が見られた。</li> <li>空手で大切な礼儀について、毎時間丁寧に指導することで、習慣化することができた。</li> <li>試合では、審判体験も行い、生徒にとって貴重な体験となった。</li> <li>数名の生徒は、実際に道着を着る経験をする事ができ、感動する生徒や、気合いが入る生徒もいた。</li> <li>空手では、道具の共有等がないため、感染症予防しながら、本格的な授業を行うことができた。</li> </ul>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症対策のため、ソーシャルディスタンスを取りながら活動を行った。</li> <li>生徒が実践に入る前に、教員のデモンストレーションを見せることによって、迫力等を伝えられるようにした。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空手の経験者(教員)が一名のみだったため、MTへの負担が多かった。</li> <li>道着は枚数が限られていたため、経験できた人数が限られていた。</li> <li>約束組手では、ソーシャルディスタンスでの取り組みになったため、イメージが付きづらい生徒もいた。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き空手に取り組む。</li> <li>他の種目に着目し、スポーツを楽しむ心の育成を行う。</li> </ul>